

## 二.新年度予算について

### 1.予算の組み方など

佐々木

②220億の財源不足が見込まれる中で、歳出・歳入の徹底した見直しをやり、結果的に100億を維持するという財源調整用基金が73億となった。

きびしい財政事情は、人口減少・高齢化の進行と社会保障費の伸びだけが原因か。財政問題を軟着陸させるための考え方を問う。

③来年度から国は、地方交付税の算定にあたり、事業を民間委託した場合にトップランナー方式と称する算定方式を導入する。

交付税総額は、前年度とほぼ同水準が確定されているので、影響はなかったと判断できるのか。

渡邊総務部長

②高齢化の進行等による社会保障経費の増加や、多額の公債費等の影響で、恒常的に歳出水準が歳入水準を上回っている。これを補う財源調整用基金の残高の減少が続き、きわめてきびしい財政状況となっている。

歳入規模に見合った歳出構造の転換に向け、予算執行段階から経費節減にとりくむとともに、歳入確保と財政基盤強化のとりくみを本格化していく。

③トップランナー方式の導入については、地域の実情に配慮し、交付税の財源保障機能が適切に発揮される制度となるよう、国に求めている。

導入の影響については、前年度並みの地方交付税総額が確保されたことのみで判断しない。ひき続き、来年度以降も具体的な算定内容について注視していく。

### 2.社会保障についての見解

佐々木

知事の所信表明の中で、社会保障についての言及が一言もないのに驚いた。

賛否は別にして、国の政策と呼応するのではなかったか。一億総活躍社会の一つは、社会保障・介護対策だ。

格差と貧困が広がっている現在こそ、社会保障制度の充実が求められるが、知事の所見をたずねる。

渡邊総務部長

だれもが安心して生活するために、社会保障制度は不可欠だ。

県は、この予算で医療や介護等の所要経費を適切に計上している。また、一億総活躍社会の実現に向け、国の補正予算を活用し、介護人材や保育士の確保、ひとり親家族の保育料軽減等にもとりくんでいる。このように、国の政策への呼応も含めて、社会保障にも的確に対応した編成を行った。

### 3.三世同居への支援

佐々木

ここまでやるのかと疑義を抱くのが、三世同居にあたっての支援だ。


家族の形はさまざまであって当然で、税金投入で政策誘導することは、個人生活への介入だ。

子どもの医療費助成を拡大することの方がより必要で、県内自治体の期待にも応えられるが、知事の見解を求める。

前田土木建築部長

三世同居・近居の世帯に子どもが多いという傾向にある中、山口県の同居率が全国平均を下回っている現状をふまえ、世代間の支え合いによる子育てしやすい環境づくりとして、「三世同居・近居推進事業」を創設した。

三世同居や近居を希望される方を支援するもので、個人生活への介入には当たらないと認識している。



「やまぐち三世同居・近居推進事業」は、新規事業として、約2千万円の予算です。

今後、県・市町・住宅業者などの民間と協議会をつくり、改修費用の助成等を行ないます。

後日、三世同居の方が出生率が高いという調査結果は無いと聞きました。